

## うさぎの「ゆき・もこ」とのこれから

20

10 FEB. 2026

西箕輪小学校の2年生は、うさぎの「ゆき」と「もこ」との別れ方について考え始めました。最初は、生まれた場所である羽広の高原牧場を候補にしていたのですが、先生から新たな候補地があることを知らされ、子どもたちの気持ちは揺れ動きます。

新しい候補地として提示された小学校の飼育場所の写真に対し、子どもたちは「いいなと思うこと（ピンク）」「心配なこと（青）」「質問したいこと（黄）」の付箋を貼っていきました。スクールタクトで意見を共有する中で、「質問したいこと」の付箋が次第に増えていきました。

いいな  
と思うことしんぱい  
なことしつもん  
したいこ  
と

## ICT活用による思考の可視化と深い学びの支援

授業では、スクールタクトを活用して児童一人ひとりの主体的な思考を促し、意見交換を活性化させることで対話を深めていました。特に、話し合いの場面で発言せず「聞いているだけ」になってしまう児童への課題に対して、すべての児童が自分の考えを持ち、それを表現できる環境を整えていました。

3色の付箋を用意することで、児童全員が課題に対する考えを持ち、可視化できるようになりました。

授業では、引き渡し候補場所（他地区の小学校）の写真をスクールタクトのスライドに提示し、児童は「ゆき・もこにとって過ごしやすいか」という視点で写真を分析します。そして、色分けされた付箋を貼ることで、「広さ」「えさ」「お世話をする人」「他の動物」「小屋」など複数のキーワードに基づいた具体的な分析が可能となり、児童の思考がより構造的に深まっていきました。

うさぎは  
何匹いる  
んですかすっごく  
広くてい  
い。ほったらか  
しにしてい  
るんですかにわが  
ひろい冬は、あった  
かくしてい  
ますか？。いじめたり  
されるかし  
んばいうさぎのお  
ともだちが  
いていい

## 研究会に参加された先生方の感想から

生活科の授業では、ICTを活用することで子どもたちの思考が可視化され、他者との意見交換や深い考察が促進されました。

まず、意見を色分けして一覧表示することで、児童は他者の視点を視覚的に把握しやすくなり、自分の考えを加筆・修正するなど、思考を深める行動が自然に生まれました。教師にとっても、児童の思考の傾向を把握しやすくなり、適切な支援が可能になりました。

また、ウサギの引越先を考える活動では、写真資料を拡大・比較しながら分析することで、子どもたちは環境の細部に注目し、より具体的な観察や判断ができるようになりました。情報量を絞って一つの対象に集中させたことで、分析の質も高まりました。

さらに、ICTによって提示された視覚情報は、子どもたちが「近くにいるほしい」という感情的な判断から、「ゆき・もこにとって安心できる環境はどこか」という理性的な判断へと移行する手助けとなりました。教師のさりげない声かけも、子どもたちの探究心を刺激し、学びをより深める効果を発揮しました。

このように、ICTの活用は、思考の可視化、資料の詳細な分析、そして理性的な判断への移行を支援することで、子どもたちの学びをより深く、豊かなものにしました。

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

西箕輪小学校 木村 れいこ先生の授業と研究会の様子を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員